

## ヤギ (山羊)

聖書に「ヤギ」という言葉が、新約・旧約あわせると 200 ヶ所近く出てきます。羊と同じく古くからなじみの深い家畜であったことがわかります。

しかし、キリスト教では、羊は善を、ヤギは悪を表しています。ときにはヤギは悪魔の化身という扱いをしたりします。そしてキリストが羊を右に、ヤギを左に分け、羊には救いを、ヤギには永遠の罰与える、そんな図が知られています。

聖書でヤギが出てくるところを調べてみますと、旧約聖書の最初のほうでは羊と同じように生贄として出てきます。

「贖罪の献げ物として、雄ヤギを毎日ささげねばならない」(エゼキエル 45・23)

ところが旧約書の後半のほうになると

「主なる神はこう言われる。わたしは羊と羊、雄羊と雄ヤギとの間を裁く」(エゼキエル 34・17)

「荒野の獣はジャッカルに会い／ヤギの魔神はその友を呼び／夜の魔女は、そこに休息を求め／休む所を見つける。」(イザヤ 34:14) まるで悪の象徴として描かれています。なぜでしょう？

旧約書をもう少し読むとこんな言葉があります。「あの毛深い雄ヤギはギリシアの王である」(ダニエル 8:21)

ここで登場する毛深いギリシアのヤギというのは、ギリシア神話のパンの神を指しています。キリスト教は異教を排除していましたから、

それを代表するパンの神は異教の象徴だったわけです。

もうひとつ気をつけなければならないことは、反芻動物の多くは芳香のある植物を嫌いますがヤギはこれを食べます。しかも雑食性で乾燥に強く草が十分でない乾燥地帯では草は根まで、樹木は樹皮や根も食べてしまいます。植物は再生することができず、そこは荒野となってしまうのです。遊牧民にとっては大変なことです。

現在ヤギによる砂漠化はかなり深刻な問題となっていて、ヤギは世界の侵略的外来種リスト 100 の 1 種に指定されています。

こんな悪食であることもヤギの評価を下げているのです。